

その人が生きた証を繋ぐ

六年生新聞

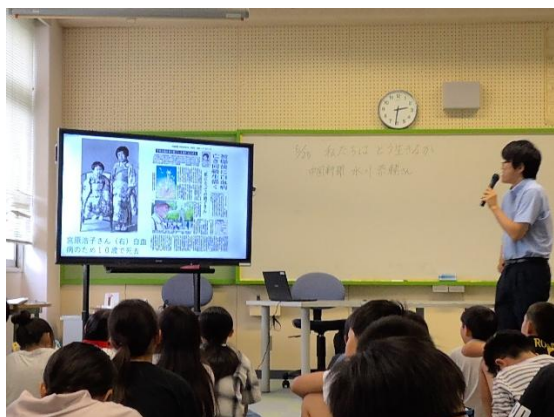
6年担任

新聞記者が伝えること

六月二十五日（木）五・六校時、多目的室で、中国新聞社の記者、水川恭輔さんから、講話をしていただきました。

水川さんは、被爆地広島の様子を、当時の写真や手記、証言から振り返り「ヒロシマドキュメント」として連載されています。

子供たちは、どのような意図で記事を書かれているのか、そこから私たちは何を学ぶべきかを考えながら話を聞くことができました。



水川さんは、戦争・原爆が何を奪ったのかを知るためには、「被爆前の一人一人が生きていた証」を伝えること。原爆後の様子や被害を伝えるのも大切だが、幸せな生活や命・日常を奪われた人たちがどんな暮らしをしていたかを知ってもらうことも大切だ。」と語っておられました。

今日の振り返り

水川さんにとっての平和は、世界中の人全員の「生き生きとした世界」と言われて、たしかにと思いました。
昨日の午前5時に生まれた赤ちゃんは、3時間しか生きななくて、人生はいまのうちに終わってしまうということがあって、そういうことも生き生きとした世界にはないと思いました。

子供達の振り返りです。

今日の振り返り

私は、ボタンをつなぐ方法は、色々あるけど、水川さんは、新聞記事を通してボタンをつないでいるので、私も、私の考えを通してボタンをつないでいたいなと思いました。

